クラスのあいさつロボット

子どもたちが紙に書いたあいさつを、教室の大きな画面のロボットがそのまま演じます。
パソコン1台でできる、1時間の授業です。

時間	必要なもの	授業前の準備
1時間 · 45分	**先生のパソコン1台 + 大型提示装置**	**10分**

1. 子どもたちは**紙のワークシート**に、ロボットの台本を書きます。セリフ、表情、しぐさ。
2. 先生がその台本を画面に写すと、**ロボットが書かれたとおりに**話して動きます。
3. 聞いてみて、おかしなところを**みんなで直します。**



プログラミングを教えたことがなくても大丈夫です。 この授業で先生がパソコンですることは、文字を直して「スタート」を押すことだけです。子どもたちの端末も、本物のロボットも、アカウントもいりません。

準備

- [ ] 先生のパソコンにRBLOCを入れて、**操作カード**のとおりに1回、最後までやってみます。 5分でできます。はじめて開くときに1回だけ、音声データのダウンロードに数分かかります。
- [ ] **ワークシート**を人数分印刷します。 白黒で十分です。
- [ ] 教室の**大きな画面から音**が出るか確かめます。

授業の流れ

分	すること	先生の言葉
5分	**人間ロボットごっこ** パソコンは使いません。1人がロボットになって前に立ちます。みんなが「おじぎをして」「笑って」「こんにちはと言って」と、1つずつ指示します。	『**ロボットは、言われたことだけを、言われた順番にします。**』 『**言われていないことは、どうなるでしょう？**』
5分	**本物の台本を見ます** 大きな画面でサンプル「いらっしゃいませ」を動かし、左の台本から「セリフ」と「（かっこの中の指示）」を探します。	『**ロボットが今したことは、台本のどこに書いてありますか？**』 『**今日は、クラスのあいさつロボットの台本を書きます。**』
15分	**紙に台本を書きます** ワークシートに、クラスに来たお客さんをむかえるあいさつを2〜3行。表情を1つ、セリフごとにしぐさを選びます。書き終わった子は、となりの人に声に出して読みます。	『**まず紙に書きます。ロボットは書いたとおりに演じますよ。**』 『**ロボットが読みやすいように、1行に1つのことだけ言いましょう。**』
15分	**ロボットが演じます** 希望した子の台本を先生が画面に写して「スタート」。聞いたあと、クラスで1か所直して、もう一度動かします。2〜3人分やります。	『**聞いてみて、どこを直したいですか？**』 『**先生もはじめてです。いっしょに探してみましょう。**』 困ったときに、そのまま言ってよい言葉です。
5分	**伝え合って、ふりかえります** となりの人とワークシートを交換して読み、よかったところをひとこと。ふりかえりを2行書きます。	『**「○○と書いたところがよかったよ」と伝えましょう。**』 『**次は、ロボットに何をさせてみたいですか？**』

こんなときは

こんなとき	こうします
ロボットが話しません	ステージ右上のスピーカーのマークと、大きな画面の音量を確かめます。はじめて開いた日は、下のバーがいっぱいになるまで（音声データの受信中）待ちます。
文字を直したのに、前のセリフを言います	直したらんの**外を1回押してから**「スタート」を押します。
子どもの書いたセリフが長すぎます	「　**ロボットが息つぎできるように、2つの文に分けてみましょうか。**」 ブロックをもう1つ出して、分けて書きます。1つ直すだけで十分です。
数字や英語を変に読みます	ひらがなで書きます（「4年2組」→「よねんにくみ」）。 「　**いい発見ですね。ロボットは書かれたとおりにしか読みません。**」
ワークシートにない表情を使いたいと言います	よいことです。「の表情をする」ブロックのらんを押すと、80種類をこえる表情が出てきます。子どもといっしょに選びます。
みんなが自分のを動かしてほしいと言います	今日は2〜3人だけにします。ワークシートを集めておき、休み時間や次の時間のはじめに動かします。
先生にもわかりません	「　**先生もはじめてです。いっしょに探してみましょう。**」 子どもたちの前でいっしょに探す姿が、この授業のいちばんよいお手本です。

もっとやさしく
セリフはそのままにして、台本の中の「わたしたちのお店」だけをクラスの名前に変えます。次に表情だけを選んでみます。低学年はここまででも楽しめます。

もっと先へ
お客さんによってちがうあいさつを2つ（転入生、校長先生）書いて、くらべてみます。ダンスのブロック（「を 回おどる」）を1つ入れて、かんげいのダンスをつけます。

教室に合わせる

タブレット・Chromebookなら
このセットのとおりにできます。子どもたちは紙に書き、画面は先生のパソコン1台で足ります。

パソコン室があれば
Windows・Macのノートパソコンでも。紙に先に書き、操作カードを見てそれぞれ写します。イヤホンがあると安心です。

本物のロボットがあれば
作るのは画面のロボットで、最後の発表だけ「本物のロボット」で動かします。ロボットは机のまん中に置きます。

子どもの見とり

点数をつける表ではなく、授業中に子どもを見るときの目安です。ワークシートがそのまま成果物になります。

自分で
セリフ・表情・しぐさのそろった台本を1人で書き、聞いたあとに直すところを自分で見つける。

少し助けてもらって
手本を見たり、となりの人に助けてもらったりして台本を書き、1か所直す。

いっしょに
先生といっしょに1行書き、表情かしぐさを選ぶ。

こんな時間に使えます

国語・書くこと　国語・話すこと・聞くこと　総合的な学習の時間　学級活動　クラブ活動　学期はじめの学級づくり

「聞く人を考えて書き、音で聞いて、書き直す」活動です。その中に「順番どおりに指示する」考え方があります。

次の時間は「ロボットがわたしを紹介します」（空のスクリプトから4〜5行を積む）や「クイズを出すロボット」（押したボタンで反応が変わる）へ。今日のワークシートの形がそのまま使えます。

＿＿＿年　＿＿＿組　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ロボットの台本を書こう

めあて クラスに来たお客さんをむかえる、ロボットの台本を書こう。

1 ロボットは、書かれたことだけをするよ。

2 ロボットは、書かれたじゅんばんにするよ。

（ロボットが目をあけて起きる）

表情 ◯ ようこそ　◯ わらう　◯ えっへん　◯ はずかしい　◯ びっくり　◯ 自分でえらぶ ＿＿＿＿

1つめのセリフ

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

しぐさ ◯ おじぎ　◯ うなずく　◯ アンテナであいさつ　◯ 首をかしげる　◯ きょろきょろ　◯ 肩をすくめる

2つめのセリフ

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

しぐさ ◯ おじぎ　◯ うなずく　◯ アンテナであいさつ　◯ 首をかしげる　◯ きょろきょろ　◯ 肩をすくめる

3つめのセリフ もっと書きたい人

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

しぐさ ◯ おじぎ　◯ うなずく　◯ アンテナであいさつ　◯ 首をかしげる　◯ きょろきょろ　◯ 肩をすくめる

（ロボットが頭を下げてねむる）

書けたら

- ☐ となりの人に、声に出して読んだ。
- ☐ 読んでみて、1かしょ直した。

友だちからのひとこと

「＿＿＿＿＿＿＿＿」と書いたところがよかったよ。」

ふりかえり ① 今日わかったこと

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ふりかえり ② 次にロボットにさせたいこと

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

5つのステップでできます

先生は授業の前に1回。パソコンのある教室では、子どもたちが見ながら進めます。



1 サンプルを開きます

RBLOCを開いて、下の「新しいスクリプト」を押します。サンプルから**「いらっしゃいませ」**を選びます。

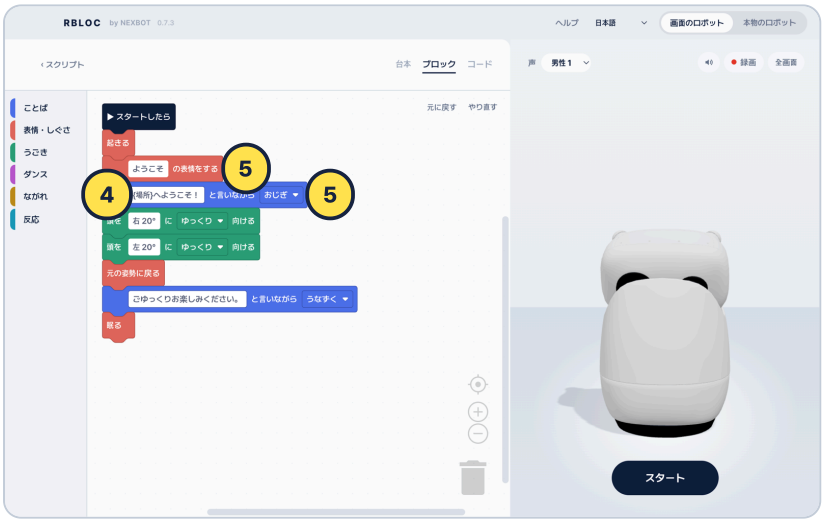


2 「スタート」を押します

ロボットが目をあけて演じます。左の台本で、今やっている行が黄色く表示されます。

3 「わたしたちのお店」をクラスの名前に

台本の中の**「わたしたちのお店」**を押して、「4年2組」のように直します。もう一度「スタート」。



4 セリフを変えます

台本の**セリフの行**を押すと、ブロックの画面に切り替わります。白いらんの文字を押して、ワークシートに書いたセリフに直します。らんの外を1回押します。

5 しぐさと表情を選びます

セリフの横の**「おじぎ」**のらんを押すとしぐさが、上の**「ようこそ」**のらんを押すと表情が出てきます。選んで「スタート」。

保存は自動です
保存ボタンはありません。直すたびに保存されます。

台本にもどる
上の「台本」を押すと、また文章で表示されます。

大きく見せる
ステージ右上の「全画面」を押すと、ロボットだけが大きく映ります。

RBLOCはこんなアプリです

インストールをお願いするときにおわたしする1枚です。すべて事実のまま書いています。

どんなものですか	子どもたちが書いた台本のとおりに、画面の3Dロボットが話して動く**無料の教育用アプリ**です。広告も、有料の機能もありません。
どこに入れますか	**先生のパソコン1台**で授業ができます。子どもたちの端末には不要です。 Windows 10・11（64ビット）またはMac（M1以降のAppleシリコン）。インストール用ファイルは約150MB。
アカウント	**ありません。** 先生も子どもも、登録やログインをしません。
子どもたちの情報	**集めません。** 名前・アカウント・機器の番号・IPアドレスを集めません。作った台本と動画はそのパソコンの中にだけあり、どこにも送りません。ロボットの声もパソコンの中で作ります。
インターネット	はじめて開くときに1回、音声データ（約380MB）をダウンロードします。**そのあとはインターネットなしで授業ができます。**
アプリがインターネットでやりとりするもの	① はじめて開くときの音声データ ② 開くときの新しいバージョンの確認（あればダウンロードして入れかえ） ③ 開くときに「開いた」という事実を1行 ④ 本物のロボットをはじめて使うときの、ロボットを動かすプログラム。 やりとりする先は `dl.rbloc.app` の1か所です。
③にふくまれるもの	アプリのバージョン、OS、パソコンの言語、本物のロボットを使ったことがあるかどうか、「今日・今週・今月・インストール後にはじめて開いたかどうか」。だれであるかがわかる番号は作りません。アプリ左上のバージョン番号を押すと出る画面で、**「匿名の利用記録を送る」をオフにできます。**
Windowsの青い画面	「WindowsによってPCが保護されました」という画面が出たら、「詳細情報」→「実行」を押します。新しく公開されたアプリをインストールするとき、Windowsが最初の1回だけ確認する画面です。
声	人が録音したものではなく、AI音声合成で作った音声です。生成AIと対話する機能は入っていません。ロボットは台本に書かれたことだけを話します。
消すとき	Windowsは「アプリと機能」、Macはアプリケーションフォルダから消します。
作っているところ	NEXBOT・株式会社オリーブストーリー（OliveStory Corp.、韓国）・nexbot.me
ダウンロード・お問い合わせ	`rbloc.app`・ガイド `docs.rbloc.app/ja`・利用条件 `docs.rbloc.app/ja/terms` **support@rbloc.app**